

## 第42回岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2023年10月3日(火)～6日(金) 於：盛岡市民文化ホール・展示ホール

<<絵画の部>>出展数 23点 審査員：日下 信介 氏

### 岩手県知事賞（1名）

氏名：田中館 隆雄（滝沢市） 作品名：残照の路地裏

審査評	夕暮の何気ない日常の一場面を、夕日と電線をアクセントに上手にまとめた。道を中央に置き、縦に伸びる画面構成も巧みに表現され、生活感の感じられる作品である。
-----	--

### 優秀賞（1名）

氏名：大須賀 美智子（花巻市） 作品名：心象風景

審査評	ブルーで統一された落書きのある画面に、白・黄・緑・青・紫の微妙な配色がバランスよく施されて、絵に深みと広がりを与えている。
-----	---

### 奨励賞（3名）

氏名：高橋 邦枝（盛岡市） 作品名：若き日への郷愁

審査評	白い服の若い女性を中心に、時空的な断片がちりばめられ“想い”を伝えている。手前の草花のしっかりとした描写が、画面の奥行き感を表現している。
-----	---

氏名：下地 谷夫（盛岡市） 作品名：春の陽光（2023.5.10.9:54）

審査評	画面に大きく建物を置き、力強く堂々と表している。壁面のレンガの描写が緻密で、見る側を引きつける。
-----	--

氏名：堀米 英子（盛岡市） 作品名：ブナ、苔の中に

審査評	ブナの巨木の持つ生命力を幹、枝、葉を上手に画面構成し、見事に表現している。深山の空気感が感じられる。
-----	--

## 佳 作（5名）

氏名：上野 仁志（盛岡市） 作品名：麦秋の候

審査評	若葉が落葉に代わり、春から夏へと向かう季節感を、陽光をアクセントに表現した。樹木の重なりが美しい。
-----	---

氏名：柴田 和夫（盛岡市） 作品名：開運橋（盛岡市）

審査評	小さな作品ではあるが、緻密な建物（ビル）が目を引き。白い橋が画面の華となっている。
-----	---

氏名：斎藤 浩子（盛岡市） 作品名：杉土手

審査評	さり気ない描写ではあるが、色彩にまとまりがあり、遠近感の秩序だった画面が作り出されている。
-----	---

氏名：巢鴨 尋子（盛岡市） 作品名：想い

審査評	青の色彩構成が、題名とマッチし、作者心象が感じられる。木の枝や根の表現にもう一工夫が欲しい。
-----	--

### ◆ 総 評 ◆

どの作品も丁寧に、心を込めて描かれており、大変好感がもてます。作品の大小は、各作者の制作条件や考えて、それぞれ尊重されるべきものですが、スケール感を表現するには、やはり適正な大きさは必要となります。作品の大きさについて、更にご検証いただければ幸いです。

## 第42回岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2023年10月3日(火)～6日(金) 於：盛岡市民文化ホール・展示ホール

<<写真の部>> 出展数 30点 審査員：小川<sup>おがわ</sup> 文男<sup>ふみお</sup>氏

### 岩手県知事賞（1名）

氏名：君塚<sup>きみづか</sup> みつ子<sup>こ</sup>（花巻市） 作品名：どろんこサッカー

審査評	とにかく女性のスナップとは考えられない。 力強さ、迫力の瞬間の捉え方の正確さが素晴らしい。
-----	--

### 優秀賞（1名）

氏名：福盛田<sup>ふくもりた</sup> 美奈子<sup>みなこ</sup>（花巻市） 作品名：夜明けの使者<sup>よあけ ししや</sup>

審査評	風景写真のお手本を見るようです。 作者の心情が見事に表現されています。
-----	--

### 奨励賞（3名）

氏名：村木<sup>むらき</sup> 眞樹子<sup>まきこ</sup>（盛岡市） 作品名：鬼よ、鎮まれ！<sup>おに しず</sup>

審査評	三ツ石神社の前のさんさ踊りですね。 これ程ムードのある写真は見た事がなかった。 次作に期待します。
-----	---

氏名：北井崎<sup>きたいざき</sup> 昇<sup>のぼる</sup>（盛岡市） 作品名：明日は晴れるか<sup>あした は</sup>

審査評	自家用車の中からの撮影でしょう。 とっさのスナップとしては、申し分ありません。
-----	--

氏名：福盛田<sup>ふくもりた</sup> 弘<sup>ひろし</sup>（花巻市） 作品名：幻想の湖<sup>げんそう みずうみ</sup>

審査評	いつもの通り、完成度の高い風景です。 いつかスナップ写真拝見させてください。
-----	---

## 佳作（5名）

氏名：<sup>いたがき こうせい</sup>板垣 弘清（花巻市） 作品名：<sup>さと あき</sup>里の秋

審査評

ベテランらしく、画面構成が内容を見事に表現しています。プリントも申し分ありません。

氏名：<sup>いとう のりこ</sup>伊藤 憲子（盛岡市） 作品名：<sup>ひとま じ ぞうざくら</sup>人待ち地蔵桜

審査評

老桜の根元にたたずむ赤頭巾の地蔵さん。孤独感が表現されている。

氏名：<sup>やまだ けいこ</sup>山田 恵子（盛岡市） 作品名：<sup>お</sup>ラストランを終えて

審査評

写材のなかなか見当たらない中、よく撮影にいかれましたね。走ったらもっと良かった。

氏名：<sup>おいかわ しげき</sup>及川 茂輝（盛岡市） 作品名：<sup>なんしよ</sup>難所

審査評

画面からはみ出そうにアップにした勇氣。大成功でした。

氏名：<sup>もりた ようこ</sup>森田 洋子（盛岡市） 作品名：<sup>ま</sup>サギの舞い

審査評

写真は写材発見が生命です  
まるでデザイン化、大成功でした。

### ◆ 総 評 ◆

今回の写真を拝見して一見で決まりました。  
上下がはっきり分かれました。  
風景とスナップと、本人に一言お伝え出来るといいなど…。  
やがてAI時代がやってきます。写真もどんどん変化します。  
勉強しましょう。

## 第42回岩手県勤労者美術展 審査評

開催期間 2023年10月3日(火)～6日(金) 於：盛岡市民文化ホール・展示ホール

<<書道の部>> 出展数 15点 審査員：吉田<sup>よしだ</sup> 晨風<sup>しんぷう</sup> 氏

### 岩手県知事賞（1名）

氏名：石井<sup>いしい</sup> ゆかり<sup>ゆかり</sup>（縁）（盛岡市） 作品名：島崎藤村<sup>しまざきとうそん</sup>の詩<sup>し</sup>より

審査評	漢字かなの調和の難しさを感じさせないで、自然体で作品を創っているようなすばらしい作。作品構成の工夫、墨量の使い方などから「初恋」の詩を用いた意図がみえかくれする。
-----	---

### 優秀賞（1名）

氏名：片方<sup>かたがた</sup> 正明<sup>まさあき</sup>（北上市） 作品名：七言律詩<sup>しちごんりっし</sup>

審査評	明清時代の行草体を意識し、墨量をのせながら曲線での連綿が自然に表現されている。行の空け方にも工夫があり、作品全体を明るくしている。
-----	---

### 奨励賞（2名）

氏名：川下<sup>かわした</sup> 洋美<sup>ひろみ</sup>（子鳳）<sup>しほう</sup>（紫波町） 作品名：憑延登句

審査評	文字の大小、紙面の疎密、筆勢など高い技術に裏づけられたすばらしい作。 作品に余裕があり、見せ場の作り方が上手い。
-----	---

氏名：松江<sup>まつえ</sup> 邦雄<sup>くにお</sup>（春風）<sup>しゅんぷう</sup>（花巻市） 作品名：楊大眼造像記<sup>ようだいがんぞうぞうき</sup>

審査評	北魏の楊大眼造像記を刻字に表現している。 石刻のものを木版に表現している難しさははかりしれない。石刻の趣がでている労作。
-----	---

## 佳作（3名）

氏名：<sup>きうち じゅんこ</sup>木内 淳子（<sup>ていりやう</sup>汀鷺）（盛岡市） 作品名：<sup>はいてきのし</sup>裴迪詩

審査評	文字のまとまり、線の強さの表現されたどっしりとした行草作品。さらに軽快な線がでてくると規模の大きさがでてくると思う。
-----	--

氏名：<sup>おおや こういち ずいほう</sup>大矢 幸一（<sup>そとうばし</sup>瑞峰）（矢巾町） 作品名：蘇東坡詩

審査評	多字数の隷書作品。力感のある線で全体を統一し、おおらかさがある。 余白が少し多くなるともっと文字が生きると思う。
-----	---

氏名：<sup>たねいち としえ</sup>種市 敏恵（久慈市） 作品名：<sup>こうりょうきつし</sup>洪亮吉詩

審査評	動きのあるさわやかな線で、全体をまとめた作。 線によどみがなく心地よい運筆がすばらしい。
-----	---

### ◆ 総 評 ◆

少し出品が少なかったが、気持ちのこもった作品がそろい、内容のある書の展示となった。各方面で活躍の場をもつ出品者なので、さらにいろいろな取り組みができると思うので、日常取り組んでいる題材や新たな分野にも挑んでみるのも書展の楽しみです。新しい分野にも眼を向けて書にかかわってもらえたら嬉しく思います。